

地域看護実習での体験を通して得られた学生の学び —市町村および保健所における実習に焦点をあてて

下村聡子¹⁾, 安田貴恵子¹⁾, 酒井久美子¹⁾, 御子柴裕子¹⁾,
柄澤邦江¹⁾, 松原智文²⁾

【要 旨】本研究は、地域看護実習における市町村および保健所における実習での学びと実習体験、学びの内容と実習目標との関連を分析し、実習方法を検討することを目的とした。2009年度後期に地域看護実習を終了した学生38名のうち、研究協力への同意の得られた36名のレポートの記述内容を質的に分析した。

学びの内容は、市町村における実習では150件、保健所における実習では128件であった。市町村および保健所保健師の特徴的な活動、生活者に対する援助、地域看護活動の展開方法、地域住民や他職種・他機関との協働活動について学んでいたことが明らかとなった。これらの学びは、保健師による活動内容の説明、保健事業への参加、家庭訪問の実施等を通して得られており、実習体験を振り返り、活動の目的や意図等の考察を促す実習指導が重要であると考えられた。また、実習目標との関連では、地域ケア体制づくり、保健事業とヘルスニーズとの関連に該当する学びが少なく、実習指導において強化すべき課題が明確になった。

【キーワード】地域看護実習、学びの内容、実習体験、保健師、

はじめに

看護職の基礎教育のあり方について、わが国では数年にわたって議論が重ねられている。1992年の「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の施行を契機に、看護学教育を学士課程で行う大学が急増し、文部科学省より、2011年度の看護系大学の総数は194校と報告されている（社会保険実務研究所、2011）。学士課程教育が急増していることを受けて、2003年に文部科学省は看護学教育の在り方に関する検討会を設置して、教育内容と大学卒業時の到達目標を示した。その報告書では、学士課程における看護学教育を三職種の免許取得に必要な教育内容を体系化して教授することに大きな特色があると述べている（看護学教育の

在り方に関する検討会、2004）。その後の社会情勢の変化や看護職に求められる社会的期待の拡大、実習施設側の状況等を踏まえた学士課程教育の検討会がもたれ、2009年8月にはその一次報告が出された（社会保険実務研究所、2009）。

地域看護学教育における臨地実習は、実践の場で起きている様々な現象の意味を確認するとともに、大学で学んだ既習の知識や理論と照合していくプロセスであり（末永ら、2007）、地域看護学を学ぶ学生にとって臨地実習の意義は大きく、学生の学びを促す教員や保健師の指導方法は重要である。学士課程における地域看護実習の課題や実習方法の検討、学習成果については、各大学から数多くの報告がなされている。本学においても、地域看護学教育の方法を開発発展させる

¹⁾ 長野県看護大学, ²⁾ 茨城キリスト教大学
2011年9月30日受付
2012年1月12日受理

ために、開学以来、教育方法の検討を行ってきた。地域看護実習において本学で取り入れている学生単独での家庭訪問の実施には、学生の責任性の自覚や学習意欲を高める効果があることを確認した（俵ら、2000）。また、市町村および保健所での実習終了後カンファレンスにおいては、学生の理解状況を見極めた上で教員の働きかけの手段を的確に判断すること、学生の体験内容に看護としての意味付けをする働きかけの重要性が示唆され（嶋澤ら、2003）、これらをもとに実習方法の検討を重ねてきた。本稿では、主要な実習の場である市町村および保健所における実習での学びの内容とそれに関する実習体験を明らかにし、これらを実習指導保健師と共有することで、地域看護実習において、学生がどのような体験をすることが効果的なのか、実習体験から学びへと結びつけるためには、どのような指導が必要なのかを検討したいと考えた。また、市町村および保健所における実習は、地域看護実習の途中時点であり、その学びの内容を明らかにすることで、後続する実習期間または卒業時までに必要な教育方法や学習内容を検討する資料となると考える。

目 的

地域看護実習を履修した学生の市町村および保健所

における実習での学びの内容とその内容に関連している実習体験を明らかにする。さらに、学びの内容と実習目標との関連を検討し、市町村および保健所における実習を終了した時点において、実習目標をどの程度学んでいるのかを明らかにする。以上より、今後の実習方法を検討することを目的とする。

用語の定義

学びの内容：レポートの課題に沿って、学生が実習での体験に基づいて考察した実習での学びの内容。

実習体験：家庭訪問での援助の実施、保健事業への参加、保健師による実習地での公衆衛生看護活動の説明等、実習プログラムに沿って実習中に学生が体験した内容。地域看護実習では、実習前に教員と実習指導保健師が打ち合わせを行った上で、実習プログラムを作成している。

地域看護実習の概要

1. 実習目的および実習目標

本学の地域看護実習は、地域の生活集団を対象とした看護活動の方法とその展開に必要な技術、地域看護の専門性の特質を学ぶことを実習目的としている。実習目標は、公的に提供される保健福祉活動に関する内

表 1 地域看護実習の実習目的および実習目標

1. 実習目的
1) 地域の生活集団を対象とした看護活動の方法とその展開に必要な技術を実施に学ぶ。
2) 講義・演習で学んだ援助の理論を実践の場で検証し、理論と技術の基本的な理解を深め、地域看護の専門性の特質を学ぶ。
2. 実習目標
公的に提供される保健福祉活動に関する学習
1) 市町村または保健所が行政サービスとして行う保健福祉活動の意義を理解する。
2) 実習施設において保健師・養護教諭が担っている役割と配属されている必要性を理解する。
地区活動に関する学習
3) 活動の対象となる地区の生活集団の構成や地域の特性を把握し、ヘルスニーズを明らかにするための地区診断の方法を理解する。
4) 実習施設で行われている保健・福祉事業について、地域特性やヘルスニーズとの関連を理解する。
5) 実習施設で行われている保健・福祉事業について、国の保健福祉施策との関連を理解する。
6) 実習施設で行われている保健・福祉事業について、展開方法の一連のプロセス（計画・実施・評価）を理解する。
地区活動の展開方法と援助技術に関する学習
7) 対象が健康に対する意識を高め、主体的に取り組むための保健指導の方法を理解する。
8) 家族を援助の単位とした活動の展開と保健指導の方法を理解し、実施できる。
9) 家庭訪問による援助の方法を理解し、展開できる。
10) 他職種および他機関と共同して地区活動を展開する方法を理解する。
11) 地区組織活動について理解し、共同して活動する方法を理解する。
12) 地域ケア体制を整える必要性、ならびに地域ケア体制づくりの方法を理解する。
地域の健康危機に関する学習
13) 生活集団における健康の危機（感染症、自然災害等）への対策の内容と対応方法を理解する。

図 1. 地域看護実習の内容

<p>学内オリエンテーション（2日間）</p> <p>＜主な内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習目的・実習目標、実習プログラムの確認 ・家庭訪問演習（訪問計画立案演習・援助技術演習） ・地区プロフィール作成（既存の資料を使い、実習市町村の概況を調べる） ・地区活動に関する事前学習（保健師が行う地区活動事例を読み、実習に向けての視点作りをする） 	
<p>市町村における実習（4日間）</p> <p>◎全学生が体験する実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習市町村のオリエンテーション（概ね初日に行う） （例：人口構成、産業構造、行政組織、保健計画等） ・保健師による活動内容の説明（概ね初日に行う） 〔例：保健師が捉えた地区の全体像、他機関・他職種および住民との協働活動、重点的に取り組んでいる活動事例等〕 ・学生単独による家庭訪問の実施（母子1事例、成人または高齢者1事例） ・保健事業への参加（乳幼児健診等の母子保健事業、介護予防や生活習慣病予防のための成人または高齢者保健事業） ・地区踏査・地区診断 ・まとめカンファレンス（最終日） 	<p>◎保健師と相談し、可能なものを体験する実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務室見学 ・子育て支援センター等の施設見学 ・地区組織活動に携わる住民へのインタビュー
<p>【レポート1-1】市町村における実習終了直後に記述する。 課題：市町村に所属する保健師は、住民の身近な場所で健康と生活を守るとい う点において、どのような活動を行い、どのような役割を担っていると考えま すか。その考えの根拠となる実習内容もあわせて論述しなさい。</p>	
<p>保健所における実習（4日間）</p> <p>◎全学生が体験する実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健師による活動内容の説明 〔例：保健師が捉えた地区の全体像、市町村や他機関・他職種との協働活動、健康危機管理活動、重点的に取り組んでいる活動事例等〕 ・事務室見学 ・日々のまとめカンファレンス ・まとめカンファレンス（最終日） 	<p>◎保健師と相談し、可能なものを体験する実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健事業への参加（精神保健デイケア、難病交流会等） ・保健師が実施する家庭訪問への同行 ・他機関・他職種との打合せ、会議、研修会等の見学 ・就労支援センター等の施設見学 ・地区診断演習、感染症対応演習 ・他機関との協働活動等の活動事例を用いた演習 ・H I V検査のロールプレイ
<p>【レポート1-2】保健所における実習終了直後に記述する。 課題：保健所に所属する保健師は複数の市町村を管轄し、住民の健康と生活を守 るという点において、どのような活動を行い、どのような役割を担っている と考えますか。その考えの根拠となる実習内容もあわせて論述しなさい。</p>	
<p>学校保健の実習（1日）</p> <p>◎全学生が体験する実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体のオリエンテーション 〔例：教育目標、学校保健計画、教職員の健康状況〕 児童・生徒の健康・生活状況の概要等〕 ・養護教諭による学校保健活動の説明 〔例：児童・生徒の健康、生活状況の把握、児童・生徒との協働活動、重点的に取り組んでいる活動事例等〕 ・保健室参観、授業参観、校内巡視 ・配属学級での給食、清掃等、児童・生徒との交流 ・実習のまとめ 	<p>◎養護教諭と相談し、可能なものを体験する実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配属学級の児童・生徒または全校児童・生徒への健康教育の実施 ・掲示物・配付物の作成 ・発育測定や健診等への参加、通知発送準備等
<p>学内まとめカンファレンス（1日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村・保健所における実習のまとめ ・学校保健の実習のまとめ ・地域看護実習全体の振り返り 	<p>【レポート2】市町村・保健所における実習のまとめカンファレンス終了後に記述する。 課題の内容：保健福祉活動を行政サービスとして行う意義についての考察</p> <p>【レポート3】市町村・保健所における実習のまとめカンファレンス終了後に記述する。 課題の内容：家庭訪問の展開プロセスを通じて学んだこと、家庭訪問の意義についての考察</p> <p>【レポート4】学校保健の実習のまとめカンファレンス終了後に記述する。 課題の内容：養護教諭の活動、援助技術の特徴、役割についての考察</p> <p>【レポート5】学内まとめカンファレンス終了後に記述する。 課題の内容：学生自身にとっての地域看護実習の意義について</p>
<p>レポート提出</p>	

○ 本研究の分析対象の地域看護実習レポート

○ 学生が記述する地域看護実習レポート

容、地区活動とその展開方法および援助技術に関する内容、健康危機管理に関する内容で構成される全13項目を示している（表1）。

2. 実習方法

実習期間は3週間であり、2日間の学内オリエンテーションの後、市町村での実習（4日間）、保健所での実習（4日間）、学校保健の実習（1日）を行い、その後、学内でそれぞれの実習のまとめを行う。実習の概要を図1に示す。

研究方法

1. 分析対象

2009年10月から同年12月に地域看護実習を履修した学生38名のうち、研究協力に同意の得られた学生の地域看護実習レポート1を分析対象とする。このレポートは、市町村での実習終了直後と保健所での実習終了直後に作成することとしている（図1参照）。

2. 分析方法

1) 学生の“実習での学び”の抽出

学生のレポートを熟読し、“実習での学び”を表現している1つのまとまりを1単位として、併記されている実習体験とともに取り出した。“実習での学び”とは、レポートの課題に沿って、学生が実習での体験に基づいて考察した内容とし、実習体験または観察内容のみの記述、実習体験が不明なものは分析対象外とした。

取り出した学生の記述を繰り返し読み、記述内容の意味を損なわないよう要約した。その後、類似する意味内容ごとに区分し、共通する内容を示すタイトルをつけ、小分類とした。さらに、共通するものを区分して大分類とした。実習体験は実習での学びと対応させながら、体験の種類を分けた。

2) 学びの内容と実習目標との関連の検討

学びの内容の小分類を、本学の地域看護実習の実習目標と照合し、その関連を検討した。

3. 倫理的配慮

地域看護実習を終了した学生に対して、研究の目的

および方法、学生の氏名の匿名化、実習グループ番号と実習施設名は伏せて分析を行うこと、分析は成績評価終了後に行い実習成績に影響しないこと、研究協力は学生の自由意思に基づき、協力の有無によって不利益を被らないこと、研究結果は地域看護に関連する学会で発表し公表するとともに、実習指導保健師と実習方法に関する意見交換を行う際に資料として活用すること等を書面および口頭で説明し、同意書への記名をもって意思を確認した。同意書の回収は、研究者が退室した後に回収箱へ投函することとした。なお、本研究は、長野県看護大学倫理委員会の承認を得て行った（承認番号2009#30）。

結 果

本研究に同意の得られた学生は36名であり、分析対象全てのレポートから学びが抽出された。大分類を【 】, 小分類を< >, 記述内容を“ ”として示す。

1. 市町村における実習での学びと実習体験

1) 学びの内容

実習での学びは150件抽出され、44の小分類、7の大分類に整理された（表2）。【生活者としての個々のニーズに基づいた援助】（60件）と【対象者と家族に対する援助】（9件）は、生活者としての対象理解に基づく個別支援や家族を単位とした援助に関する学びであった。【生活者としての個々のニーズに基づいた援助】は最も多く、<対象者のニーズを明らかにする>、<自ら健康づくりに取り組むことをねらいとした支援を実施する>、<対象者の生活に合った援助を実施する>などの8つの小分類から構成された。主な記述内容は、“対象者の反応や発言を五感で捉えて新たなヘルスニーズを見出していくことが保健師の役割の一つである”、“住民一人ひとりが自分自身の健康の維持・増進のために取り組んでいけるように手助けしていくことが保健師の役割の一つである”、“対象の行動変容を促すためには、その人がどのような生活をしているのかを具体的に見ていかなければ問題や解決策が見えてこない”であった。【対象者と家族に対する援助】は、<対象者とその家族全体を対象として援助する>、

表2 市町村における実習での学びと実習体験

大分類	小分類	学びの件数 ^{注2)}	実習体験 ^{注1)}					全体
			説明	事業	訪問	カンファ	地区	
【生活者としての個々のニーズに基づいた援助】	対象者のニーズを明らかにする	11	1	5	6			
	自ら健康づくりに取り組むことをねらいとした支援を実施する	10		9	3			
	対象者との信頼関係を構築する	10	1	2	5	2		1
	対象者の生活に合った援助を実施する	9		4	6	1		
	対象者の健康状態をアセスメントし、対象者に必要な援助を実施する	8			8			
	対象者の健康状態をアセスメントし、対象者の問題対処能力を高める	7		7				
	健康問題を予測し、予防的に対応する	4		4	1			
他職種と連携し、対象者に必要なケア体制を整える	1			1				
	小計	60(40.0)	2	31	30	3	0	1
【対象者と家族に対する援助】	対象者とその家族全体を対象として援助する	8			8			
	対象者や家族にも働きかける	1		1	1			
	小計	9(6.0)	0	1	9	0	0	0
【地域のヘルスニーズに基づいた看護活動の展開方法】	地域特性やヘルスニーズを把握する	13	8	3	2			
	住民との関わりを通してヘルスニーズを把握し、対応する	6		3	4			2
	地域特性やヘルスニーズに基づいた活動を計画・実施・評価する	4	1	2				1
	より住民のニーズに合った活動にするために、活動を評価する	4		3				1
	地域特性やヘルスニーズに基づいて活動する	3	3					
	健康問題を予測し、予防的に対応する	3	3					
	ヘルスニーズに基づいた活動の目的・目標を明確にする	1	1	1				
	地域特性を踏まえた保健計画を理解する	1						
看護の視点で地域のヘルスニーズを把握し、活動を展開する	1		1				1	
地区診断によりヘルスニーズを把握し、対応する	1	1	1					
	小計	37(24.7)	17	14	6	0	0	5
【地域特性・ヘルスニーズに応じた保健事業の実施】	対象者のニーズに応じて他職種と連携して保健事業を実施する	7		7				
	対象者の特性に応じて実施方法を工夫する	4		4				
	他機関・地域住民と協働して活動する	2		2				
	地域特性に応じた保健事業を実施する	1		1				
	法律に基づく保健サービスを地域の実情に応じた形で実施する	1		1				
	心と体の健康づくりを行う	1		1				
	小計	16(10.7)	0	16	0	0	0	0
【地区組織との協働活動】	地区組織と協働して活動する	2	1		1			
	地区組織を育成、支援する	2		2				
	地区組織との協働により、サービスの充実を図る	1		1				
	地区組織活動により、住民同士の支え合いを支援する	1		1				
	地区組織活動の主体的な活動の継続のために支援する	1						1
	地区組織との協働により地域全体の健康意識の向上を図る	1						1
	地区組織の参加者の意欲を向上させ、地域全体の健康意識の向上を図る	1						1
	地区組織との協働により、地域と支え合う	1						1
	小計	10(6.7)	1	4	1	0	4	0
【地域住民との協働活動】	保健事業の運営に住民参加を促すことで、地域の人々の健康に関する意識を高める	1		1				
	地域住民と一緒に活動する	1						1
	小計	2(1.2)	0	1	0	0	0	1
【行政に所属する保健師の特質】	地域全体を対象として活動する	5	3	3	1			
	保健師は住民にとって身近な看護職である	4		3	2			
	住民が健康なときから生涯にわたって支援する	2						2
	対象者や家族を地域全体で支援する	1		1	1			
	偏りなく公的サービスを提供する	1		1				
	データを国や県へ報告する	1	1					
	あらゆる年代に対して、対象者の生活に沿った支援をする	1			1			
	住民の健康維持と生きがい作りのためのサービスを整備する	1			1			
	小計	16(10.7)	4	7	6	0	0	2
	合計	150(100.0)	24	74	52	3	4	9

注1：説明＝保健師による活動内容の説明、事業＝保健事業への参加、訪問＝家庭訪問の実施、地区＝地区組織のメンバーへのインタビュー、カンファ＝実習地でのカンファレンス、全体＝実習全体

注2：複数の実習体験から学びを述べている場合があるため、学びの件数と体験別の件数は一致していない。

＜対象者や家族にも働きかける＞の2つの小分類から構成された。

【地域のヘルスニーズに基づいた看護活動の展開方法】(37件)と【地域特性・ヘルスニーズに応じた保健事業の実施】(16件)は、集団や地域全体を対象としたヘルスニーズに基づく看護活動の展開方法に関する学びであった。【地域のヘルスニーズに基づいた看護活動の展開方法】は、＜住民との関わりを通してヘルスニーズを把握し、対応する＞、＜地域特性やヘルスニーズに基づいた活動を計画・実施・評価する＞、＜より住民のニーズに合った活動にするために、活動を評価する＞などの10の小分類から構成された。主な記述内容は、“個別に行う援助や集団に対して行う援助の中から住民の状態を観察し、さらに新たなニーズを見つけ、それに対する援助を検討する”、“健康診査や統計の結果から地域の特性を捉え、健康づくりのための予防事業を計画・実施・評価する”、“ヘルスニーズの変化や新たなニーズなどにより住民が参加しやすい活動を作るための評価を行う”であった。また、【地域特性・ヘルスニーズに応じた保健事業の実施】は、＜対象者のニーズに応じて他職種と連携して保健事業を実施する＞、＜対象者の特性に応じて実施方法を工夫する＞など6つの小分類から構成され、育児支援や生活習慣病予防等の対象集団に共通するニーズと個々のニーズに応じた活動方法を述べていた。

【地区組織*との協働活動】(10件)と【地域住民との協働活動】(2件)は、保健活動を地域の人々と共に取り組む意義に関する学びであった。【地区組織との協働活動】は、＜地区組織を育成、支援する＞、＜地区組織活動により、住民同士の支え合いを支援する＞などの8つの小分類から構成された。主な記述内容は、“地区組織を育成することで、住民にとって健康についての知識を得ることにつながり、住民一人ひとりに力があることで、さらに健康な地域を作ることにつながる”、“地区組織が同じ地域に暮らす住民の立場から他の住民を支えることを支援する”であった。【地域住民との協働活動】は＜地域住民と一緒に活動する＞という地域住民との協働活動の必要性に関する学びであった。

【行政に所属する保健師の特質】(16件)は、＜地

域全体を対象として活動する＞、＜保健師は住民にとって身近な看護職である＞などの8つの小分類から構成され、行政に所属する市町村保健師の活動対象の範囲や対象者との心的距離感に関する学びであった。

2) 学びの内容に関連する実習体験

【生活者としての個々のニーズに基づいた援助】と併記されていた実習体験は、保健事業への参加と家庭訪問の実施が多くを占めていた。“保健師として個性を理解して接し、母親の悩みを傾聴しアドバイスする”という母子保健事業の参加時に観察した保健師の援助場面や、“生活している場や姿を把握した上で転倒防止の提案をすると、(対象者は)納得されたような表情と返答があった”という家庭訪問において、学生が援助を実施した体験が述べられていた。

【地域のヘルスニーズに基づいた看護活動の展開方法】と併記されていた実習体験は、保健師による活動内容の説明が最も多く、“骨粗鬆症や骨折が多いなどのデータをもとにヘルスニーズを導き出し、介護予防事業を実施している”という学生が参加した保健事業と実習地域のヘルスニーズとを結びつけた説明の内容を述べていた。また、保健事業への参加や家庭訪問の実施は、“乳幼児健診で地域に住む子どもや親の特徴、地域特性を把握し分析する”、“地区診断や家庭訪問を用いて担当地区の住民の生活の様子を思い浮かべる”などの活動対象となる地域住民と直接接した体験を述べていた。【地域特性・ヘルスニーズに応じた保健事業の実施】は、全て保健事業への参加が併記されており、“計画・実施・評価を実際に流れとして捉えることができた”という体験を述べていた。

【地区組織との協働活動】では、保健事業への参加や地区組織のメンバーへのインタビュー等の実習体験が併記されており、保健事業に地区組織が関わっていた場面、地区組織のメンバーに活動内容や活動に対する考え等についてインタビューをした体験を述べていた。

2. 保健所における実習での学びと実習体験

1) 学びの内容

実習での学びは128件抽出され、56の小分類、13の大分類に整理された(表3)。最も学びが多かった【健

健康危機を最小限に抑えるための対策・対応】(27件)は、
 <感染症を予防し、拡大防止のための活動を行う>、
 <他機関・他職種と連携して健康危機へ対応する>、
 <健康危機管理体制を整える>などの11の小分類から構成された。主な記述内容は、“地域住民に感染症が蔓延しないように情報収集を行う”、“関係者と連携することで被害を最小限に抑えることができると思った”、“保健師は感染症対策において予防活動を行ったり、普段から発生時の対応について準備したり、発生時には調査から評価まで携わることで、地域住民が安心して生活を送れるような体制を整える役割がある”であり、感染症予防や拡大防止のための健康危機管理活動に関する学びであった。

【市町村や他機関との協働活動】(19件)は保健所保健師と管轄地域の市町村保健師、他機関との協働活動の必要性や方法に関する学びであり、<市町村との情報共有や情報提供を通して、市町村の活動を支援する>、<市町村や他機関・他職種と連携し、行政サービスを提供する>などの8つの小分類から構成された。主な記述内容は、“複数の市町村を管轄する幅広い視点を持っているからこそ、管内市町村に対して、他の市町村の活動についての情報提供ができる”、“病院や地域の他職種、市町村と連携を図ることを通して、円滑に行政サービスが進むように調整している”であった。

【管内施設・企業のキーパーソンへの働きかけ】(4件)や【他機関への教育・相談支援】(2件)は、保健所保健師による他機関への働きかけや活動支援に関する学びであった。【管内施設・企業のキーパーソンへの働きかけ】は、<他機関のサービスや技術の質の向上のために、研修会を実施する>、<事業所の健康管理者へ働きかける>、【他機関の教育・相談支援】は<学校保健活動に関わり、教師や生徒の健康生活を間接的に支援する>、<他機関の関係者からの相談に対応する>のそれぞれ2つの小分類から構成されており、前述の【市町村や他機関との協働活動】よりも具体的な内容が表現されている学びであった。

【地域特性やヘルスニーズに基づいた看護活動の展開方法】(19件)、【ヘルスニーズに応じた保健事業の実施】(11件)、【生活者としての個々のニーズに基づ

いた援助】(17件)は、市町村における実習での学びと共通してみられた大分類であったが、小分類の内容は市町村における実習での学びとは異なるものであった。

【地域特性やヘルスニーズに基づいた看護活動の展開方法】は<各市町村のヘルスニーズを把握し、市町村保健師と共有する>、<管内のヘルスニーズを把握し、対応する>などの5つの小分類から構成された。記述内容は、“各市町村からの報告を集計して、新たな健康課題を見出して市町村保健師と共有する”、“地域を全体としてみたり、市町村ごとにみたり、柔軟に対応していくことでニーズを把握し、事業を展開する”という複数の市町村を管轄し、管内地域のヘルスニーズを明確化する保健所保健師の広域的な視点を学んでいた。【ヘルスニーズに応じた保健事業の実施】は、<対象者のヘルスニーズに応じて保健事業の実施方法を工夫する>、<当事者グループの自主活動を支援する>などの5つの小分類から構成され、対象者の特性やヘルスニーズに応じた支援方法に関する学びであった。

【生活者としての個々のニーズに基づいた援助】は、<対象者が自身で目標を立て、達成できるよう支援する>、<対象者の主体性やセルフケア能力を高める>等の5つの小分類から構成された。さらに、保健所における実習では、個別支援に関して、【市町村保健師や他機関・他職種との連携による個別支援】(10件)、【保健所保健師の個別支援ケースの理解】(9件)、【行政としての対応と個々のニーズへの対応】(3件)という他職種との連携に関する学びや保健所保健師が対象とするケースの理解、精神保健福祉活動における緊急対応事例に関する学びがみられた。

2) 学びの内容に関連する実習体験

【健康危機を最小限に抑えるための対策・対応】と併記されていた実習体験は、感染症対応に関する演習が最も多く、感染症の発生事例を用いて保健師の指導のもとで机上演習を行い、学生が対応方法を考察した体験を述べていた。保健師による活動内容の説明は、保健師からの説明により、健康危機管理における平常時の備えや発生時の対応について理解した体験であった。

表3 保健所における実習での学びと実習体験

大分類	小分類	学びの件数 ^{注2)}	実習体験 ^{注1)}							
			説明	事業	会議	訪問	演習	カンファ	事務局	全体
【健康危機を最小限に抑えるための対策・対応】	感染症を予防し、拡大防止のための活動を行う	7	4				3	2		
	他職種・他機関と連携して健康危機へ対応する	4	1				3			
	健康危機管理体制を整える	4					3	1		
	感染症の原因を追究する	3					3			
	感染症予防のための啓発活動を行う	2	1					1		
	住民の不安軽減を図る	2					1	1		
	感染症法に基づき、予防対策や患者への対応を行う	1			1	1				
	感染症に対応することで地域の人々の健康を守る	1	1							
	感染症に対して、中心的に対応する	1	1							
	住民に受け入れやすく効果的な方法で啓発活動を行う	1		1						
地域や国への情報伝達を行う	1									
	小計	27(21.1)	8	1	1	1	13	6	0	0
【市町村や他機関との協働活動】	市町村との情報共有や情報提供を通して、市町村の活動を支援する	8	5		3					
	市町村と保健所が協力連携して管轄地域全体の安全な生活・健康を守る	4	3				1			
	市町村や他機関・他職種と連携し、行政サービスを提供する	2	2							
	市町村保健師と協働してサービスの質の向上を図る	1					1			
	市町村保健師との協働のために、連絡をとり関係を作る	1	1							
	管内地域の状況に対し、市町村や他機関と連携し、対応を検討する	1			1					
	市町村や他機関・他職種と連携し、地域の健康増進を図る	1	1							
	他職種・他機関と連携・調整して活動する	1						1		
	小計	19(14.8)	12	0	4	0	2	1	0	0
【管内施設・企業のキーパーソンへの働きかけ】	他機関のサービスや技術の質の向上のために、研修会を実施する	2			2					
	事業所の健康管理者へ働きかける	2			2					
	小計	4(3.1)	0	0	4	0	0	0	0	0
【他機関の教育・相談支援】	学校保健活動に関わり、教師や生徒の健康生活を間接的に支援する	1					1			
	他機関の関係者からの相談に対応する	1					1			
	小計	2(1.6)	0	0	0	0	2	0	0	0
【地域のヘルスニーズに基づいた看護活動の展開方法】	各市町村のヘルスニーズを把握し、市町村保健師と共有する	7	4				2	1	1	
	管内地域のヘルスニーズを把握する	7		2	2		3			
	管内地域のヘルスニーズを把握し、対応する	3	2		1	1	2			
	地域のヘルスニーズに基づいた活動をする	1	1							
	法律や施策をもとに住民のニーズに合わせて活動する	1								1
	小計	19(14.8)	7	2	3	1	6	1	2	1
【ヘルスニーズに応じた保健事業の実施】	対象者のヘルスニーズに応じて保健事業の実施方法を工夫する	6		6						
	市町村単位では少数の対象者に対して、管内地域全体で事業を立案する	2					1			1
	当事者グループの自主活動を支援する	1		1						
	住民のニーズに応じた研修会を開催する	1					1			
	他機関と協力し、研修会を開催する	1					1			
	小計	11(8.6)	0	7	0	0	2	1	0	1
【生活者としての個々のニーズに基づいた援助】	疾病に関連する偏見から人権を擁護する	5					3	2		
	対象者が自身で目標を立て、達成できるように支援する	5		5						
	対象者の主体性やセルフケア能力を高める	4		4						
	対象者の話を聴き、相談に対応する	2		2						
	対象者のニーズを把握し、必要な援助を検討する	1		1						
	小計	17(13.3)	0	12	0	0	3	2	0	0
【市町村保健師や他機関・他職種との連携による個別支援】	市町村保健師と連携して対象者を支援する	3	2			1		1		
	市町村保健師や他機関・他職種と連携して対象者を支援する	3	3							
	他職種と連携して対象者を支援する	3								
	市町村保健師との関係を築き、対象者への支援を充実させる	1				1				
	小計	10(7.8)	5	3	0	2	0	1	0	0

表3 保健所における実習での学びと実習体験（つづき）

大分類	小分類	学びの件数 ^{注2)}	実習体験 ^{注1)}							
			説明	事業	会議	訪問	演習	カンファ	事務室	全体
【保健所保健師の個別支援ケースの理解】	市町村単位では少数の対象者へ支援する	4	4							
	困難事例に対して活動する	1	1							
	少数でハイリスクな対象者に対して活動する	1	1							
	緊急性の高い事例へ対応する	1	1							
	援助の継続が困難で、特殊な健康問題に対して対応する	1	1							
	市町村では対応の難しい対象者へ関わる	1								1
	小計	9(7.0)	8	0	0	0	0	0	0	1
【行政としての対応と個々のニーズへの対応】	対象者の状態をアセスメントし、措置入院の必要性を判断する	2	2							
	措置入院の対応を行い、その後も継続的に対象者の状態を把握し、必要な支援を実施する	1	1							
	小計	3(2.3)	3	0	0	0	0	0	0	0
【行政に所属する保健師の特質】	管内地域の住民の健康支援を行う	2			1					1
	市町村・県・国へ情報を伝達する	1						1		
	県・国へ情報を伝達する	1	1							1
	地域全体を対象として活動する	1	1							
	法律に基づいて活動する	1						1		
	小計	6(4.7)	2	0	1	0	0	2	1	1
【地域住民の疾病への理解の促進】	ボランティアを育成し、地域住民の理解者を増やす	1		1						
	小計	1(0.8)	0	1	0	0	0	0	0	0
	合計	128(100)	45	26	13	4	28	14	3	4

注1：説明＝保健師による活動内容の説明，事業＝保健事業への参加，会議＝打ち合わせや会議等の見学，訪問＝家庭訪問への同行，演習＝活動事例を用いた演習，カンファ＝実習地でのカンファレンス，事務室＝事務室見学，全体＝実習全体

注2：表2と同様

【市町村や他機関との協働活動】では、保健師による活動内容の説明が最も多く、“市町村保健師や医師、薬剤師等の他職種、他機関と話し合っただけで対応を決める”という保健師から受けた説明の内容を述べていた。打ち合わせや会議等の見学は、管轄地域の市町村保健師や他機関の職員と共に、健康状況等に関する情報共有や今後の対応について検討している会議に参加したものであった。

【管内施設・企業のキーパーソンへの働きかけ】と併記されていた実習体験は、管内施設のスタッフや企業の健康管理者に対して、サービスの資質向上や健康管理を目的とした活動について提案し、検討し合う会議を見学した体験であった。また、【他機関の教育・相談支援】には、HIV・エイズの予防啓発活動における教育機関への働きかけに関する事例を用いて、その働きかけの方法を実習グループで検討した演習について述べてられていた。

【地域のヘルスニーズに基づいた看護活動の展開方法】と併記されていた実習体験は、保健師による活動

内容の説明が最も多く、“管轄市町村をデータから地区診断し、課題やそれに対する取り組み、目標を考え、各市町村と共有する”などの保健師の説明から理解したことが述べられていた。また、活動事例を用いた演習は、管内市町村の死亡統計等のデータからヘルスニーズを読み取った体験であった。【ヘルスニーズに応じた保健事業の実施】では、保健事業への参加が最も多く、“難病交流会は、難病を抱えた本人やその家族の薬やりハビリ等についての様々なニーズに対応していた”という保健事業へ参加した体験をもとに、その事業の成り立ちを述べていた。

【市町村や他機関・他職種との連携による個別支援】と併記されていた実習体験には家庭訪問への同行があり、“同行訪問後、保健所保健師から市町村保健師に対象者の様子について報告していた”という訪問後の市町村保健師との情報共有の場面を述べていた。また、【行政としての対応と個々のニーズへの対応】では、保健師の説明から精神保健福祉活動における措置入院の必要性の判断と当該事例への継続支援について理解

表4 実習目標との照合結果

実習目標	市町村		保健所	
	人数	学びの件数	人数	学びの件数
1) 市町村または保健所が行政サービスとして行う保健福祉活動の意義を理解する.	14	15	0	0
2) 実習施設において保健師・養護教諭が担っている役割と配属されている必要性を理解する.	0	0	0	0
3) 活動の対象となる地区の生活集団の構成や地域の特性を把握し、ヘルスニーズを明らかにするための地区診断の方法を理解する.	16	21	7	7
4) 実習施設で行われている保健・福祉事業について、地域特性やヘルスニーズとの関連を理解する.	4	5	3	4
5) 実習施設で行われている保健・福祉事業について、国の保健福祉施策との関連を理解する.	2	2	16	18
6) 実習施設で行われている保健・福祉事業について、展開方法の一連のプロセス（計画・実施・評価）を理解する.	13	17	15	17
7) 対象が健康に対する意識を高め、主体的に取り組むための保健指導の方法を理解する.	28	35	6	9
8) 家族を援助の単位とした活動の展開と保健指導の方法を理解し、実施できる.	8	9	0	0
9) 家庭訪問による援助の方法を理解し、展開できる.	20	25	2	3
10) 他職種および他機関と共同して地区活動を展開する方法を理解する.	8	9	24	30
11) 地区組織活動について理解し、共同して活動する方法を理解する.	10	11	1	1
12) 地域ケア体制を整える必要性、ならびに地域ケア体制づくりの方法を理解する.	1	1	9	9
13) 生活集団における健康の危機（感染症、自然災害等）への対策の内容と対応方法を理解する.	0	0	16	30
計		150		128

したことを述べていた。

3. 学びの内容と実習目標との関連

学びの内容と実習目標とを照合した結果を表4に示す。以下に、実習目標の内容を簡潔に表現したものを〔 〕で示し、結果を説明する。

市町村における実習終了直後での学びは、〔7. 健康づくりに主体的に取り組むための保健指導の方法〕に関するものが最も多く、28人が述べており、次いで〔9. 家庭訪問の展開〕に関するものは20人であった。

〔3. 地区診断の方法〕については16人が述べていたのに対し、〔4. 保健・福祉事業と地域特性やヘルスニーズとの関連〕については4人であった。また、〔12. 地域ケア体制作り〕については1人のみであった。〔2. 保健師の役割と必要性の理解〕と〔13. 健康危機管理活動〕に関する学びはみられなかった。

保健所における実習終了直後での学びは、〔10. 他職種・他機関との協働活動〕に関するものが最も多く、

24人が述べており、次いで、〔13. 健康危機管理活動〕、〔5. 保健・福祉事業と国の保健福祉施策との関連〕は16人であった。〔1. 行政サービスとして行う保健福祉活動の意義〕、〔2. 保健師の役割と必要性の理解〕、〔8. 家族を単位とした活動〕に関する学びはみられなかった。

考 察

1. 市町村または保健所での実習において特徴的であった学びの内容

市町村における実習では、生活者としての個々のニーズに基づいた地域住民に対する援助に関する学びが最も多く、加えて、家族を単位とした援助、地区組織活動の育成と支援、地域住民との協働活動の学びがみられた。育児支援や生活習慣病予防などの住民の身近な健康課題に取り組む必要性や、個人、家族、住民グループに対する健康生活に向けた支援の方法を学ぶ

ことができていたと考えられる。さらに、保健師が地域住民と関わる保健事業や家庭訪問の実施を通して得られた生活に密着した情報を集積し、ヘルスニーズに関連する事柄を把握する方法や視点、ヘルスニーズに基づいた看護活動を計画・実施・評価する一連の展開方法のプロセスについての学びも得られていた。

保健所における実習での学びの内容には、保健所保健師の活動対象の特性を理解した上で、活動方法に関する学びを述べていることに特徴があると考えられ、市町村保健師や他職種・他機関との連携や協働に関する学びが特に多くみられていた。地域住民に対する個別援助では、在宅療養生活を送る難病患者や療育を必要とする乳幼児とその保護者等、対象の特性を理解した上で、市町村保健師や他職種・他機関と連携して援助することを学んでいた。地域のヘルスニーズの把握方法に関しても、複数の市町村を管轄する保健所保健師の役割を踏まえて、市町村保健師が把握している情報と保健所保健師のそれとを共有することによって、地域全体のヘルスニーズを把握する方法を学んでいた。これらに加え、感染症対応や健康危機管理体制作り等、健康危機管理の拠点としての保健所の役割や機能、他職種・他機関への教育・相談支援に関しても学ぶことができていた。

厚生労働省が2003年に示した「地域における保健師の保健活動指針」には、市町村保健師には地域住民の健康の保持・増進を目的とした住民の身近な健康問題に取り組むこと、そのための保健サービスに関係職者と協働して企画・立案し、提供、評価する役割があるとされている。保健所保健師に関しては、保健所内の他職種と協働し管内市町村および医療機関の協力を得て広域的に健康課題を把握し、その解決に取り組むこと、健康危機管理への迅速かつ的確な対応を行う役割が示されている。学びの内容をみると、これらの市町村および保健所保健師の役割や特徴的な活動について学ぶことができていたと考えられる。

2. 市町村、保健所での実習に共通してみられた学びの内容

生活者である地域住民に対する援助、他職種・他機関との協働活動、地域のヘルスニーズに基づいた看護

活動の展開方法に関する学びは、市町村および保健所での実習に共通してみられた。地域住民に対する援助では、対象者を生活者として捉える視点、対象者のニーズに即した援助や対象者の持つ力を引き出す援助に関する内容がみられた。また、住民のヘルスニーズに応じてより専門性の高い活動を展開していくための他職種・他機関との協働活動に関する学びも得られており、学生は双方の実習を通して、看護職として必要な対象理解の視点や援助技術、方法を学ぶことができていたと考えられる。地域のヘルスニーズに基づいた看護活動の展開方法に関しても、地域看護活動の展開方法の基本を学ぶことができていた。

これらの学びを実習の進度に対応させてみると、生活者である地域住民に対する援助と、他職種・他機関との協働活動に関する学びには、質的な違いが認められ、保健所における実習での学びには、より一層具体的な援助方法が述べられているものがみられた。地域住民に対する援助では、対象者自身が目標を立て、達成できるように支援するという、対象者のセルフケア能力を高めるための方法をより具体的に述べていた。他職種・他機関との協働活動では、対象者のニーズに対応するために他職種と連携するという協働活動の必要性に関する学びに加えて、保健所における実習では、他職種・他機関との情報共有や活動方法の検討など、協働活動をどのように進めるのか、その方法が述べられていた。このことから、市町村での実習において、活動の基本となる事柄を学び、後続する保健所における実習で体験を積み重ねることによって、活動方法の有用性を確認したり、具体的な実践方法を理解したりすることができていたと推察される。

3. 学生の学びに関連する実習体験

1) 保健師活動の体験とその意味付け

学びの内容と併記されていた実習体験には、家庭訪問の実施や保健事業への参加、地区組織のメンバーへのインタビュー、会議や打ち合わせの見学等、対象者の家庭において援助を実施することや、保健師活動を肌で感じることでできる直接的な体験が多くみられた。このことから、保健師の活動の展開方法や援助技術を学ぶためには、活動の場面を見学したり体験した

りできる実習体験が重要であると考え、五十嵐ら(2007)が行った学生の自己評価と実習経験時間との関係を分析した先行研究においても、具体的な実習体験を通して保健師役割の理解が高まっていくことが明らかとなり、地域看護活動の理解を深めるための保健事業への参加等の時間の重要性が示唆されている。

筆者らは、学生自身が実習体験を振り返り、活動に込められている保健師の意図や目的などについて考察することを実習指導の際に重視している。地域住民に対する援助に関する学びをみると、学生が見学した保健師の援助や学生自身が実施した援助の意味と、なぜその援助が必要なのかが表現されている。また、家庭訪問の実施や保健事業への参加において地域住民と関わる体験は、地域のヘルスニーズの把握方法に関する学びにも結びついており、住民との関わりを通して学生が捉えた健康上の悩みや考えと、地域のヘルスニーズとを関連付けて考えるきっかけとなっていた。保健事業の参加終了後には、学生は計画、実施、評価の展開プロセスを追いながら保健事業の全体像をまとめ、実習地における必要性やヘルスニーズに即した保健サービス作りについて話し合う。この過程は、学生の行動や観察レベルに留まらず、活動の目的や保健師が意図していることと、活動対象である地域住民の姿が結びつき、看護としての意味を理解することにつながっていたと考えられる。これらのことから、学生の実習体験を学びへと結びつけるための教員や実習指導保健師の意図的な関わりが重要である。

保健事業でのスタッフカンファレンスや他職種・他機関との会議等の見学は、他職種・他機関との協働活動に関する学びへと結びついていた。しかし、学びの内容には、連携の目的や方法について明確に表現されていないものもあった。片岡ら(2008)が行った先行研究においても、他職種・他機関との連携について抽象的な内容が多く、学生の学びが漠然としていることが報告されている。より具体的な学びへと発展させていくためには、保健師と他職種・他機関とのやり取りの場面に加えて、その目的は何か、連携をとるために大切となる方法は何かを実習指導保健師から説明を加えていただくことや、学生に問いかけることを今後の課題としたい。

2) 実習地域で活動する保健師から地域に根づいた活動を学ぶ体験

保健師が実施する公衆衛生看護活動に関する説明を受ける実習体験を通して、地域のヘルスニーズに基づく看護活動や健康危機管理活動、保健所保健師と市町村保健師との協働活動に関する学びが得られていた。保健師が捉えている地域のヘルスニーズやそのニーズに応じた活動の展開方法、活動する上で大切にしていることを、そこで活動している保健師の言葉で聞く体験は、座学とは異なる貴重な実習体験であったと考えられる。

実習開始前の打ち合わせでは、筆者らは実習指導保健師に対して、地域のヘルスニーズや活動の展開方法などについて、重点的に取り組んでいる活動に焦点をあてた具体的な説明を依頼している。保健師から説明を受ける実習体験から学びへと結びつけるためには、このような教員と実習指導保健師との十分な打ち合わせが重要である。また、学生の実習に臨む姿勢も学びの内容に影響するものと考えられる。保健師の説明を受身的に聞くだけでは学びは得られにくいと予測されるため、学びたいという意欲やこれを学ぶという学習の視点を持ちながら注意深く説明内容を聞くことで、理解が深められると推察される。事前学習では、実習市町村の既存の資料を用いて地域の概要を捉えることや、保健師活動の事例を用いて保健師が行う活動の展開方法を学ぶための学習の視点づくりをしている。これらの事前学習を通して、学生の実習に臨む準備状況を高めることが重要である。

4. 学びの内容と実習目標との関連からみた実習方法の検討

市町村における実習での学びでは、[3. 地区診断の方法]について学んでいた学生数に対し、[4. 保健・福祉事業と地域特性やヘルスニーズとの関連]について学んでいた学生が少ない結果となり、保健所における実習でも同様の傾向がみられた。その背景として、地域特性やヘルスニーズと保健事業の関連を整理する記録用紙が別にあることから、分析対象としたレポートには記述が少なくなったと予測される。しかし、実習地域の特性やヘルスニーズを具体的に捉えることが

できているかは明らかにできていない。今後は、地域特性やヘルスニーズを学生なりに捉え、その内容を保健師と共に確認したり、学生が体験した保健師活動は地域のヘルスニーズとどのように関連しているのかを考察したりすることを促す指導が必要である。

[12. 地域ケア体制づくり]は、他の実習目標と比べて、学生の学びが少ない結果となった。他職種・他機関との協働による個別支援に関する学びから、ケアチーム作り、さらには地域住民の健康と生活を守るための地域ケア体制作りへと学習の視点を広げることが望まれる。また、市町村および保健所それぞれの実習が終了した段階では、[2. 保健師の役割と必要性の理解]に該当する学びはみられず、保健所における実習が終了した時点では、[1. 行政サービスとして行う保健福祉活動の意義]に該当する学びもみられなかった。学生がこれらの実習目標に関する学びを得るためには、市町村および保健所双方における実習での学びを統合して、行政機関に所属する保健師が果たす役割を考察することが必要となる。双方における実習での学びを統合するまとめカンファレンスにおいて(図1)、学生が体得した断片的な学びをつなぎ合わせ、学びを発展させることが重要である(嶋澤ら, 2003)。

本研究の分析対象であるレポートは、市町村および保健所における実習それぞれが終了した直後に記述しており、学生はより強く印象に残った体験や学びを記述していることが予測される。そのため、双方における実習での学びの内容と実習目標との関係には、学びが該当した実習目標にばらつきが認められた。しかし、[5. 保健・福祉事業と国の保健福祉施策との関連]、[7. 健康づくりに主体的に取り組むための保健指導の方法]、[10. 他職種・他機関との協働活動]などは、双方の保健師に共通する活動内容や援助技術である。保健所での実習において、先に終了した市町村での実習を思い起すことで、保健師の役割や活動の特徴について新たな気付きが得られ、さらに、双方の実習での学びを統合することで学びを深め、学生へ定着させることができると思う。

おわりに

本研究により、学生は市町村および保健所における実習を通して、それぞれの保健師の特徴的な活動や地域看護の特質、看護職として必要な対象理解の視点や援助技術を学んでいたことが明らかとなった。これらの学びは、保健師から活動内容について説明を受けること、保健師活動の実際の場面の見学、地域住民への援助の体験等を通して、学生が保健師活動の目的や方法、意図を考察することで得られていたと推察された。このことから、教員や実習指導保健師は学生が体験した事柄から学びへと結びつけるための意図的な関わりが重要であると考えられる。今後も、学生の学びをより具体的なものにすることや、学びを統合し発展できるような実習方法を検討していきたい。

なお、本研究の一部は、第2回日韓地域看護学会共同学術集会で発表した。

本研究の限界と課題

本研究は、実習施設での体験と学びとの関連を探ることをねらいとして実習途中で作成するレポートを分析した。市町村および保健所における実習それぞれが終了した直後のレポートを分析しており、他の実習記録やカンファレンスでの発言内容等は分析していない。学びの内容は、地域看護実習の途中経過のものであるため、全ての日程が終了した時点では学びが促進されているものもあると考えられ、地域看護実習終了時の学びと比較することにより、学びの広がりや深まりを検討する必要がある。

謝 辞

本研究に協力くださいました学生の皆様、学生の学びの場を提供していただき、ご指導くださった保健師の皆様へ深く感謝申し上げます。

* 地区組織について

地区組織とは、住民個人、あるいは家族だけの体

験では気がつきにくい生活や健康の問題を、住民自身が互いに発見し合い解決の見通しをもって取り組む力を獲得していく過程での集合体（山崎, 2001）であり、民生・児童委員や保健推進員、食生活改善推進員、老人会等を示す。

文 献

- 五十嵐久人, 尾上佳代子, 鶴田来美, 他 2 名 (2007):
地域看護学実習における実習経験内容と自己評価,
南九州看護研究誌, 5 (1), 61-65.
- 看護学教育の在り方に関する検討会 (2004): 看護実
践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標,
4-11.
- 片岡三佳, 普照早苗, 松下光子, 他 1 名 (2008): 地
域基礎看護学実習終了後のレポート分析からみた学
生の学び, 岐阜県立看護大学紀要, 8 (2), 3-10.
- 嶋澤順子, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 他 2 名 (2003):
地域看護実習における市町村・保健所での実習終了
後カンファレンスの指導方法, 長野県看護大学紀要,
5, 19-29.
- 末永カツ子, 瀬川香子, 鈴木和広, 他 1 名 (2007):
大学における保健師教育に関する考察—地域看護学
実習の展開過程と学生の学びを通して—, 東北大学
医学部保健学科紀要, 16(2), 69-79.
- 社会保険実務研究所 (2009): 週刊保健衛生ニュース,
平成21年8月31日, 第1522号, 2-5.
- 社会保険実務研究所 (2011): 週刊保健衛生ニュース,
平成23年3月7日, 第1598号, 39.
- 俵麻紀, 北山三津子, 御子柴裕子, 他 3 名 (2000):
家庭訪問実習の教育効果, 長野県看護大学紀要, 2,
17-27.
- 山崎京子 (2001): 保健婦教育における地区組織への
支援活動, 保健婦雑誌, 57 (7), 534-542.

【Reports】

Students' learning outcomes that were obtained through the experiences in Community Health Nursing Practice: Focus on the practical training in health organizations in municipalities and public health centers

Satoko SHIMOMURA ¹⁾, Kieko YASUDA ¹⁾, Kumiko SAKAI ¹⁾, Yuko MIKOSHIBA ¹⁾, Kunie KARASAWA ¹⁾, Tomofumi MATSUBARA ²⁾

¹⁾Nagano College of Nursing, ²⁾Ibaraki Christian University

【Abstract】 The purpose of this study is to consider the methods of Community Health Nursing Practice by analyzing a) learning outcomes, b) experiences of practical training, c) relation between learning outcomes and aims of Community Health Nursing Practice. We focused on the practical training in health organizations in municipalities and public health centers, and qualitatively analyzed students' reports that were written right after their practical training. 38 students finished their practical training from October through December, 2009. Among them, 36 students agreed to participate in this study.

The learning outcomes of practical training in health organizations in municipalities were 150, and those of public health centers were 128. These were, for example, "support for clients based on their needs", "development of nursing activity based on health needs of local residents", "cooperating with the organizations of local residents". Students had learned about these through their experiences such as participation in public health services, home-visits, receiving public health nurses' explanations about public health nursing activities. In the relation between the learning outcomes and the aims of Community Health Nursing Practice, there were few learning outcomes about development of health care systems, relation between the public health services and health needs of local residents.

To enhance students' learning outcomes, it is important for students to consider the aims of public health nurses by reflecting on their experiences of the practical training. This study clarified issues which we have to consider when we educate students during the practical training.

【Key words】 community health nursing practice, learning outcomes, experiences of practical training, public health nurses,

下村聡子
〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694番地
長野県看護大学 広域看護学講座 地域・在宅看護学分野
Tel: 0265-81-5193 Fax: 0265-81-5193
Satoko Shimomura
Nagano College of Nursing
Department of Community Health Nursing and Home Care Nursing
1694 Akaho, Komagane, Nagano 399-4117 JAPAN
Tel: +81-265-81-5193 Fax: +81-265-81-5193
E-mail:satoko-shimomura@nagano-nurs.ac.jp